



**ADVANTEST**<sup>®</sup>

# 2021年度（2022年3月期） 第1四半期決算説明会

2021年7月28日  
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

# ご注意

---

## 会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

## 将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

## 本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



```
operation == "MIRROR_X":
    mirror_mod.use_x = True
    mirror_mod.use_y = False
    mirror_mod.use_z = False
    operation == "MIRROR_Y":
    mirror_mod.use_x = False
    mirror_mod.use_y = True
    mirror_mod.use_z = False
    operation == "MIRROR_Z":
    mirror_mod.use_x = False
    mirror_mod.use_y = False
    mirror_mod.use_z = True

selection at the end -add
obj.select= 1
obj.select= 1
context.scene.objects.active
obj.select= 1
obj.select= 1
```

# 2021年度第1四半期決算報告

取締役 兼 経営執行役員 藤田 敦司

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

**ADVANTEST**<sup>®</sup>

## 四半期業績推移

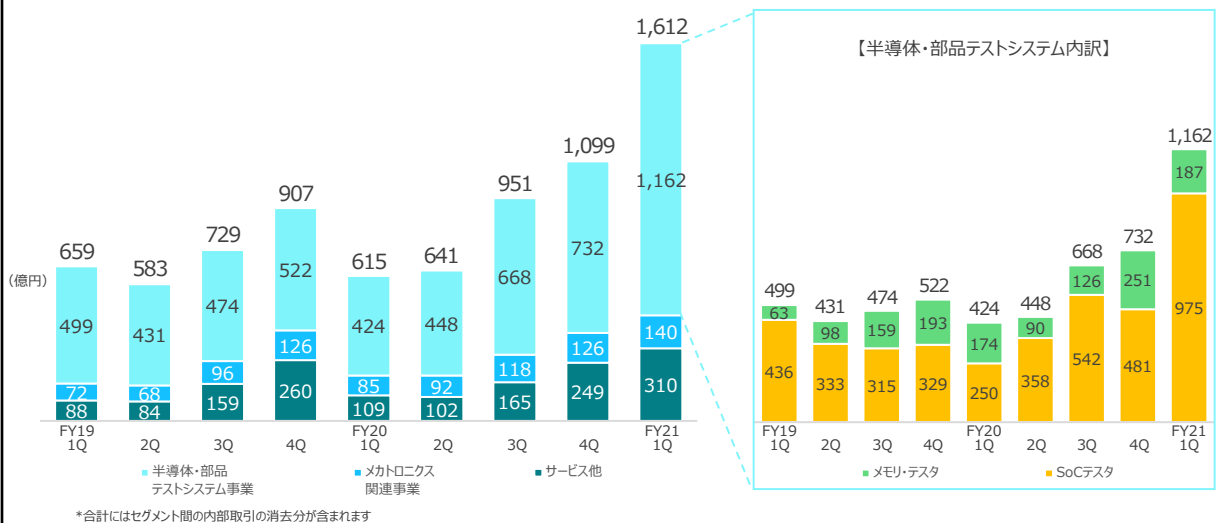
(億円)

	FY20				1Q	FY21			
	1Q	2Q	3Q	4Q		前期比		前年同期比	
						増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	615	641	951	1,099	1,612	+513	+46.6%	+998	+2.6倍
売上高	667	774	781	906	971	+65	+7.2%	+304	+45.5%
売上総利益	380	416	402	485	547	+63	+12.9%	+168	+44.2%
売上総利益率	56.9%	53.9%	51.5%	53.5%	56.4%	+2.9pts		-0.5pts	
営業利益	135	174	153	245	261	+16	+6.4%	+127	+94.1%
営業利益率	20.2%	22.6%	19.5%	27.1%	26.9%	-0.2pts		+6.7pts	
税引前四半期利益	129	164	139	264	257	-7	-2.7%	+128	+99.6%
四半期利益	106	139	120	333	193	-139	-41.9%	+88	+83.4%
四半期利益率	15.8%	18.0%	15.4%	36.7%	19.9%	-16.8pts		+4.1pts	
受注残	857	725	895	1,088	1,729	+641	+58.9%	+872	+2.0倍
為替レート	1米ドル 1ユーロ	108円 118円	107円 123円	105円 124円	104円 127円	109円 131円	5円 円安 4円 円安	1円 円安 13円 円安	

### ○ 2021年度第1四半期の業績概要

- 1Qの事業環境を振り返ります。
- コロナ禍に端を発したデジタル化の加速が、データセンターやパソコン、AI関連の半導体需要を押し上げました。また、5Gスマートフォンメーカー間の販売競争は、関連する半導体の需要増と高機能化対応を加速しました。
- 加えてコロナ禍からの最終需要回復を受け、自動車向けを中心に、多様な用途で半導体の不足感が顕著なものとなりました。
- これらの動きを受け、半導体市場全般にわたって生産能力増強投資や先端技術投資が活発化しました。
- こうした環境下、当社は幅広い製品ポートフォリオの強みを活かし、拡大する半導体試験需要の全方位的な取り込みに努めました。
- この需要の伸びに合わせるべく、半導体や電子部品の需給が逼迫する中、製品の安定供給に向けて尽力しておりますが、サプライチェーン全体の目詰まりによる調達納期の長期化が当社製品のリードタイム長期化にも影響を及ぼしています。
- こうしたテストの需要増と製品のリードタイムの長納期化を見越した顧客からの先行確保の動きもあり、受注高は、過去最高だった前年度4Qの数字を大きく超過しました。
- 売上高および営業利益についても、過去最高の四半期実績となりました。
- 四半期利益は前期比減少していますが、これは前年度4Qに繰延べ税金資産計上による一過性の要因があったためです。

## 四半期受注高 事業セグメント別



○ 2021年度第1四半期の事業別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前期比 58.7%増 1,162億円
- SoCテストは、前期比494億円増の975億円でした。全般的に好調でしたが、特にスマートフォンの基幹部品であるアプリケーション・プロセッサ (APU)や、ハイ・パフォーマンス・コンピューティング (HPC)用デバイスをはじめとした、ハイエンドSoC向けが大きく伸びました。
- メモリ・テストは、前期比64億円減の187億円でした。DRAM向け受注は伸びたものの、フラッシュメモリ向けで4Qの大型受注からの反動減がありました。

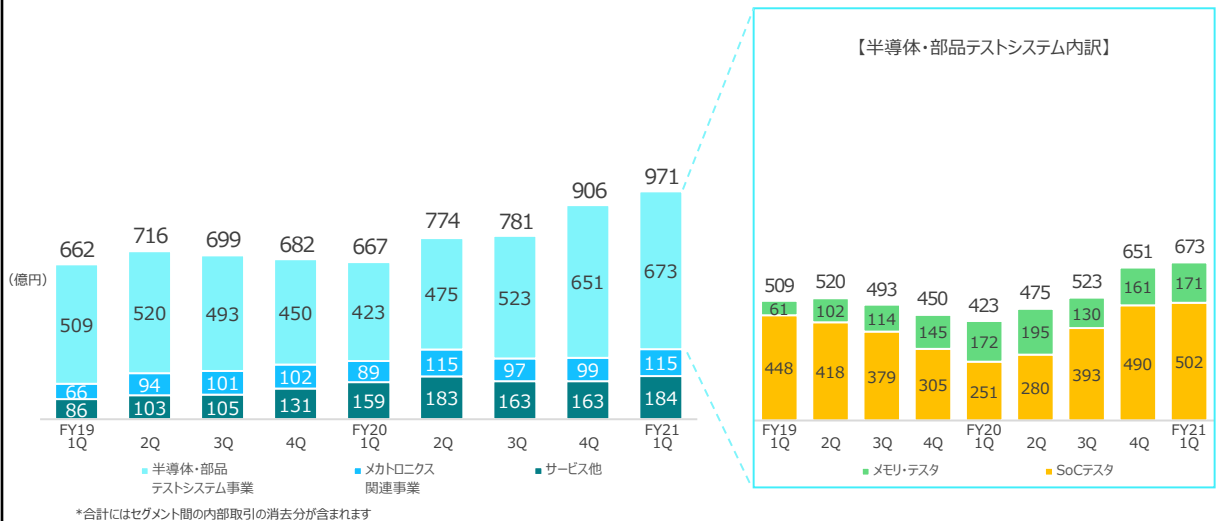
○ メカトロニクス関連事業

- 前期比11.8%増 140億円
- EUV関連でナノテクノロジー製品の受注が増加しました。

○ サービス他

- 前期比 24.8%増 310億円
- 年間保守契約更新の季節性の減少はありましたが、高規格なSSDの普及やサーバー・パソコン市場の堅調さを主因に、システムレベル・テスト (SLT) 関連の受注が伸びました。

## 四半期売上高 事業セグメント別

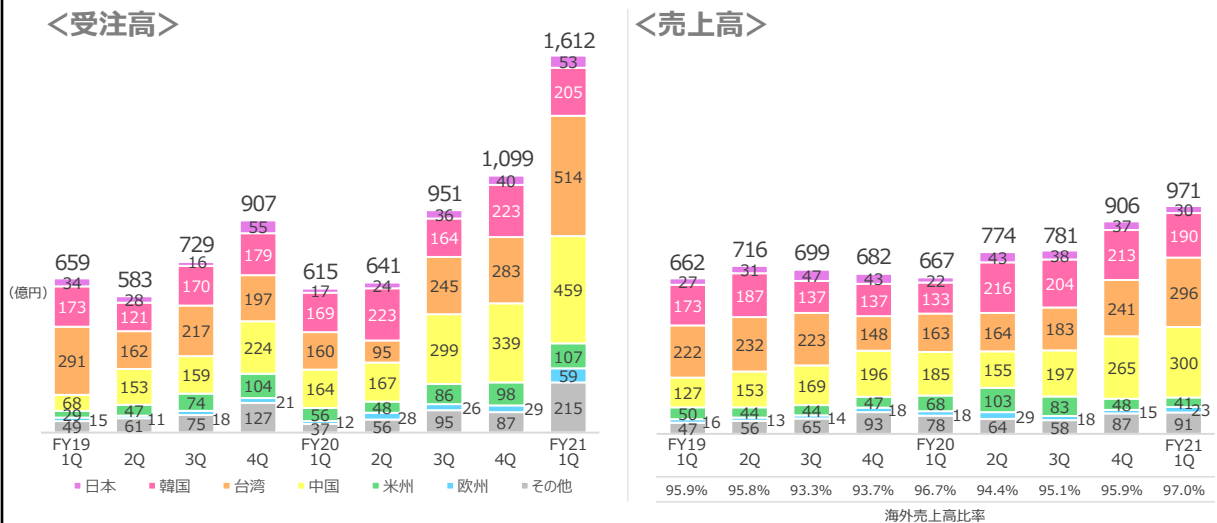


6 | ADVANTEST

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

- 2021年度第1四半期の事業別売上高
- 半導体・部品テストシステム事業
  - ・ 前期比 3.3%増 673億円
  - ・ 内訳としては、SoCテストが502億円、メモリ・テストは171億円です。どちらも前年度4Qに引き続き、高水準な売上が継続しました。
- メカトロニクス関連事業
  - ・ 前期比 15.8%増 115億円
  - ・ デバイス・インタフェース、テスト・ハンドラ、ナノテクノロジー製品、全て堅調な売上となりました。
- サービス他
  - ・ 前期比 13.2%増 184億円
  - ・ SLT事業の高水準な受注が継続し、着実に売上を伸ばしました。

## 四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別



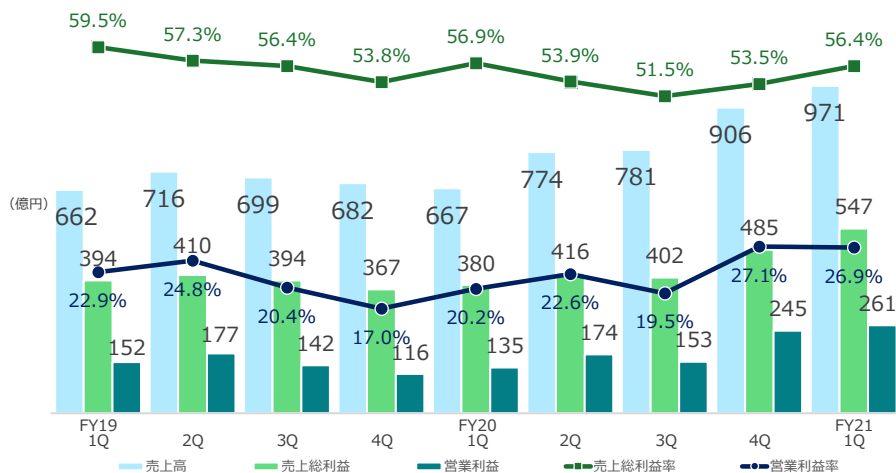
### ○ 2021年度第1四半期の地域別受注高

- 1Qは、どの地域においても顧客の旺盛な投資意欲が見られました。
- 特に目立つのは、  
台湾、中国  
スマートフォンやHPC関連を中心にハイエンドSoC向けの受注が大きく伸びました。  
その他地域  
東南アジアにおいて、パソコンやサーバー関連、車載・産業機器向けが堅調でした。

### ○ 2021年度第1四半期の地域別売上高

- 台湾、中国  
スマートフォン関連の売上が増加しました。
- 海外売上高比率 97.0%  
積極投資が海外主要地域で進展したことで、過去最高となりました。

## 売上高/売上総利益/営業利益



### ○ 2021年度第1四半期の営業利益

- 売上総利益率 56.4%

前期比での増収、および好採算品の売上構成比上昇により、売上総利益率が改善しました。
- 販管費等（その他収益・費用を合算） 286億円

1Qは、前期比47億円増加しています。

ただし前年度4Qはドイツ子会社での年金制度見直しに伴い、その他収益として約56億円を計上しています。

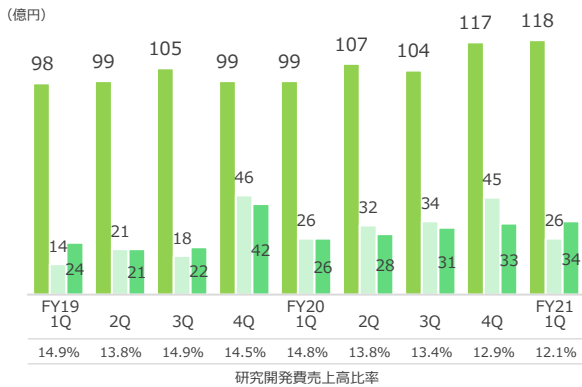
それらの影響を除いた正味の販管費では、前期比やや減となりました。
- 営業利益 261億円
- 営業利益率 26.9%



# 投資等/キャッシュ・フロー

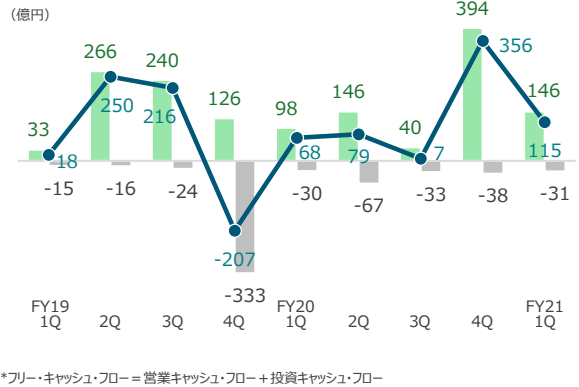
## <投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費



## <キャッシュ・フロー>

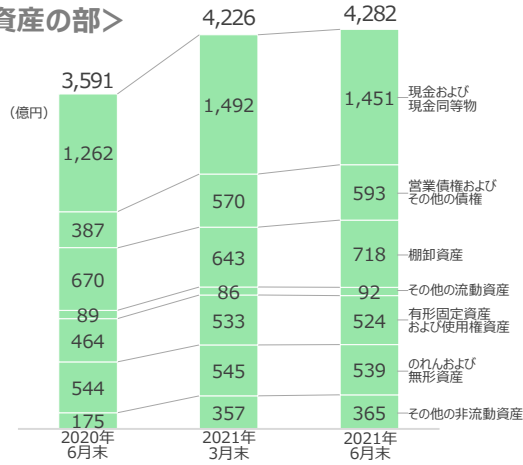
- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー



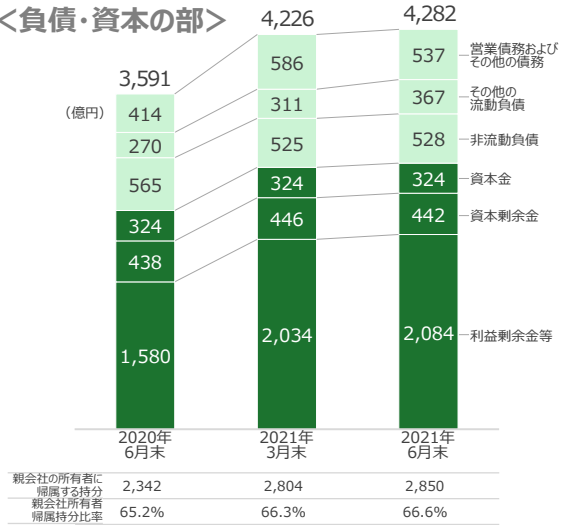
- 2021年度第1四半期の研究開発費等
  - ・ 研究開発費 118億円
  - ・ 研究開発費売上高比率 12.1%
  - ・ 設備投資 26億円
  - ・ 減価償却費 34億円
  
- 2021年度第1四半期のキャッシュ・フローの状況
  - ・ フリー・キャッシュ・フロー 115億円

# 連結財政状態

## <資産の部>



## <負債・資本の部>



### ○ 2021年6月末時点のバランス・シート

- 総資産 4,282億円
- 現金および現金同等物 1,451億円
- 親会社の所有者に帰属する持分 2,850億円
- 親会社所有者帰属持分比率 前年度末比0.3ポイント増 66.6%



# 2021年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

**ADVANTEST**<sup>®</sup>

## 半導体テスト市場の動向 <21年7月時点の見方>

### CY21予想

デジタル革命進展とエネルギー効率改善ニーズを受け、生産能力増強と半導体高性能化への積極投資が主要地域で進行中

- SoCテスト市場規模: 約\$3.8B

- APUやHPC用デバイス新製品の量産開始や複雑化進展により、各テストユーザーにおける高水準な稼働率は当面継続する見通し  
ハイエンドSoC向けを中心に、テスト能力拡充投資の一段の活発化を予想
- 想定より強く推移している車載向け等の動きと併せて、市場規模見通しを引き上げ

- メモリ・テスト市場規模: 約\$1.4B

- デジタル革命進展とともに進められている微細化、多層化、高速化/広帯域化などのデバイス進化が、テスト需要を持続的に牽引

	CY20実績	CY21推定
SoCテスト市場	約\$3.0B	約\$3.8B (4月時点推定:約\$3.4B~)
メモリ・テスト市場	約\$1.2B	約\$1.4B (4月時点推定:約\$1.3B~)

Source: Advantest

### ○ 暦年2021年のテスト市場の見方

- 5月に開催した、第2期となる新たな中期経営計画の説明会でご説明しましたとおり、デジタル革命の進展とエネルギー効率改善ニーズが中長期的に半導体および半導体試験市場を拡大させる、という流れの中に当社はいます。
- 2021年はまさに、最終需要の拡大と最終製品の高性能化に沿う形で、半導体供給不足を解消するための生産能力増強や半導体高性能化への積極投資が主要地域で進行中です。
- SoCテスト市場については、APUやHPC用デバイスにおける新製品投入・量産開始、それら半導体の微細化を通じた複雑化の進展により、各テストユーザーでは高水準な稼働率が当面継続すると見込んでいます。それを受けて、ハイエンドSoC向けを中心に、テスト能力拡充投資の一段の活発化が予想されます。
- 現時点ではCY21のSoCテストの市場規模は、3.8B米ドルで見込んでいます。
- メモリ・テスト市場では、微細化、多層化、高速化といった技術進化が、昨年以降持続的にテスト需要を拡大しています。最新の顧客動向を踏まえて市場規模見通しを調整した結果、CY21のメモリ・テストの市場規模は現時点では1.4B米ドルと見込んでいます。
- 製品のリードタイムの長期化に伴い、顧客からのテスト先行確保の動きが活発になっており、市場規模の推定が過去より難しくなっています。推定通りに市場が推移するとすれば、テスト市場が2年連続で20%以上成長するということとなります。

## FY21業績予想

(億円)

	FY20 実績	FY21					前年度比		(参考)新旧予想比較	
		1Q実績	2Q予想	上期予想	下期予想	通期予想	増減額	増減率	4月時点 FY21予想	修正額
受注高	3,306	1,612	988	2,600	1,400	4,000	+694	+21.0%	3,500	+500
売上高*1	3,128	971	939	1,910	1,940	3,850	+722	+23.1%	3,500	+350
営業利益	707	261	235	496	504	1,000	+293	+41.4%	850	+150
営業利益率	22.6%	26.9%	25.0%	26.0%	26.0%	26.0%	+3.4pts		24.3%	+1.7pts
税引前利益	696	257	235	492	508	1,000	+304	+43.6%	850	+150
当期利益	698	193	176	369	381	750	+52	+7.5%	640	+110
当期利益率	22.3%	19.9%	18.7%	19.3%	19.6%	19.5%	-2.8pts		18.3%	+1.2pts
受注残	1,088	1,729	1,778	1,778	1,238	1,238	+150	+13.8%	1,088	+150
研究開発費	427	118	117	235	235	470	+43	+10.1%	460	+10
設備投資	137	26	54	80	70	150	+13	+9.5%	150	-
減価償却費	118	34	33	67	68	135	+17	+14.4%	135	-
為替レート*2	1米ドル 1ユーロ	106円 123円	109円 131円	110円 135円	110円 135円	110円 134円	4円 円安 11円 円安		105円 130円	5円 円安 4円 円安

\*1:合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

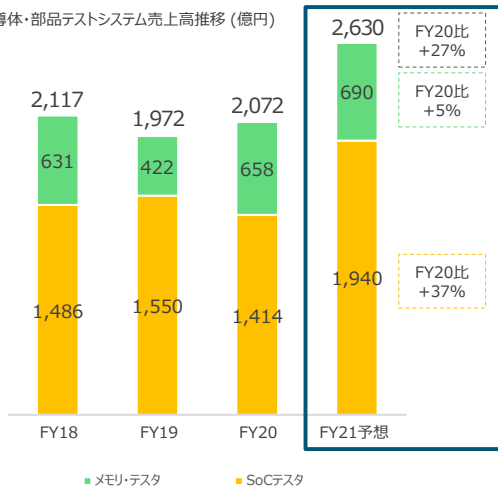
\*2:為替レート変動が今年度の営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時+10億円です。対ユーロは-1.5億円です

### ○ 2021年度の業績予想

- 1Q実績と今後の見通しを踏まえ、通期予想を、受注高4,000億円、売上高3,850億円、営業利益1,000億円、税引前利益1,000億円、当期利益750億円に引き上げます。
- この予想を達成できれば、受注高、売上高は年度最高額を更新。営業利益は初めての1,000億円台の大台到達となります。営業最高益は24年ぶりの更新となります。
- 今後の受注トレンドは、1Qの急峻な受注増の反動を見込むものの、2Q以降も一定の高水準な受注を見込んでいます。
- 製品のリードタイムが長期化傾向にあるため、顧客からの引合は活発ですが、流動的であるとも言えます。受注は従来より見通しにくい状況です。経済情勢次第で上振れもありうると考えています。
- 売上高については、足元の受注残の増加に加えて、今後とも一定の受注水準を見込むことから、堅調な売上が各四半期続くことを予想しています。
- 前年度比23%の増収計画です。生産キャパシティにはあまり懸念はありませんが、半導体や部品不足は、さまざまな産業を横断した大きな課題になっています。サプライチェーンの目詰まりによる機会損失を生じさせないよう、必要部材の確保に努めていきます。
- 売上総利益率は、通期で55%程度を想定しています。部品価格の上昇の影響の懸念はありますが、それほど大きくはないと考えています。
- 2Q以降の予想の前提とした為替レートは、米ドル110円、ユーロが135円です。
- 為替レート変動が今年度の営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時+10億円です。対ユーロは-1.5億円です。

## FY21見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム売上高推移（億円）



### 半導体・部品テストシステム事業

#### <SoCテスト>（4月予想比 +250億円）

- APUやHPC用デバイスに対する先端プロセス採用を通じた半導体複雑化の進行が、テスト需要を力強く牽引
- 自動車向けや産業機器関連を中心とした、半導体不足を解消するための能力増強の動きもテスト需要をサポート

#### <メモリ・テスト>（4月予想比 +10億円）

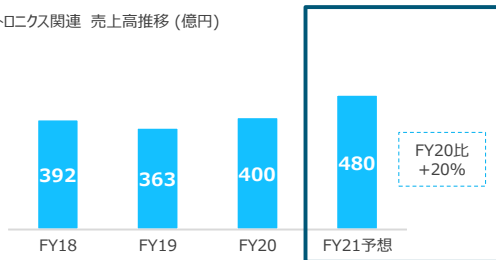
- 当社が強みを持つDRAM高速試験向けを中心として増収を企図

### ○ 半導体・部品テストシステム事業の今期見通し

- 1Qの高い受注高実績と今後も一定以上の受注水準が継続するという良好な事業環境のもと、SoCテストの2021年度通期売上予想を、4月の見通しから250億円引き上げ、1,940億円とします。
- APU、HPCなどで、微細化に伴う半導体複雑化の流れがテスト需要を押し上げていますが、この流れは当面続く見通しです。
- 自動車向けや産業機器関連を中心に、半導体不足を解消するための供給能力増強も活発に行われています。
- メモリ・テストの2021年度通期売上予想は、4月の見通しから10億円引き上げ、690億円とします。
- デジタル革命が加速する中、NANDとDDR4/5向けのテスト需要は安定的に推移する見込みです。そうした中、当社では、強みを持つDRAM高速試験向けを中心に、売上の拡大を見込んでいます。

## FY21見通し（事業別）

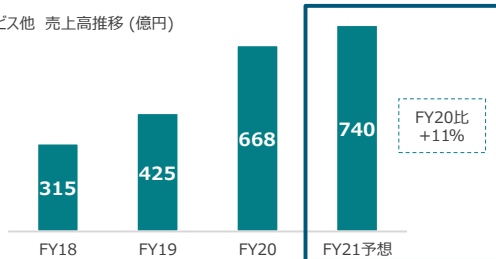
メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



### メカトロニクス関連事業（4月予想比 +60億円）

- メモリ・テスト需要と連動し、同製品向けのデバイス・インタフェースやテスト・ハンドラの需要が堅調
- EUV露光の拡大を背景に、ナノテクノロジー製品も需要増

サービス他 売上高推移（億円）



### サービス他事業（4月予想比 +30億円）

- 高規格SSDの普及やサーバー・パソコン市場の堅調さを受け、システムレベル・テスト製品の需要が増加
- 当社製品の設置台数が順調に拡大する中、保守サービスの需要増も堅調

### ○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- ・メカトロニクス関連事業は、メモリ・テスト事業との連動性が強いセグメントです。
- ・メモリ・テストの需要が高水準で継続していることで、テストセル需要の拡大を見込んでいます。
- ・またEUV技術の広がりを背景にナノテクノロジー製品の需要も好調なことから、2021年度の売上予想を60億円引き上げ、480億円とします。
- ・サービス他事業については、売上予想を30億円引き上げ、740億円とします。
- ・これはシステムレベル・テスト事業の需要増と、半導体テストの設置台数拡大に連動したサービス保守事業の伸びを踏まえたものです。

## 自己株式の取得について

### <第2期中期経営計画における株主還元方針>

- 安定した事業環境を前提として、直接還元の配当は安定的・継続的とすべく、一株当たり配当金半期50円・通期100円を最低額とする金額基準に変更（従来は半期連結配当性向30%ベース）
- 自己株式取得を含めた通期総還元性向：50%以上を目途とする
- 第2期中計期間中に新規に創出した営業キャッシュフローに加え、手元資金の状況を勘案し、株主還元と資本効率の向上を目的とした自己株式取得を機動的に検討

（ただし、想定以上の資金を要する成長投資機会の発生や、事業環境の変化による業績悪化などにより、これらの株主還元を実行できない場合があります）



- 取得対象株式の種類：当社普通株式
- 取得し得る株式の総数：1,000万株（上限）（発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合：5.1%）
- 株式の取得価額の総額：700億円（上限）
- 取得する期間：2021年8月2日～2022年3月24日

### ○ 自己株式の取得について

- 第2期中期経営計画における株主還元方針の一環で、自己株式取得を含めた通期の総還元性向については50%以上を目途とすることを発表しました。
- 今回の業績予想修正を踏まえ、700億円の自己株式の取得を実施し、株主還元と資本効率の向上を図ります。
- 期間は8月から3月までの8か月間、取得し得る株式数の上限は発行済株式総数の約5.1%相当の1,000万株です。



## サマリー

- コロナ禍によって加速されたデジタル革命は半導体需要を大きく押し上げ、生産能力増強と半導体高性能化への積極投資が主要地域で進行中
- 1Q受注高の大幅上振れと今後の見通しに基づき、通期受注予想を500億円、通期売上予想を350億円、それぞれ上方修正。営業利益も過去最高益となる1,000億円超えを目指す
- APUやHPC向けデバイス新製品の量産開始や複雑化進展により、各テスト顧客のハイレベルな稼働率は当面継続する見通し。半導体の不足解消の動きと併せてテスト需要の好調持続を予想
- 株主還元と資本効率向上のため、1,000万株/700億円を上限とする自己株式取得を実施
- 需要好調のもと、第2期中期経営計画の初年度は幸先良いスタートとなっているが、以下のリスクに留意しつつ中計目標の達成を目指す
  - ① サプライチェーンの目詰まりによる部材調達難
  - ② 期待される世界経済回復の遅れによる需要減退
  - ③ 米中対立や経済安全保障政策がもたらす半導体産業への影響

### ○ サマリー

- コロナ禍によって加速されたデジタル革命は半導体の需要を大きく押し上げ、生産能力の増強と高性能化への積極的な投資が主要地域で進められています。
- 1Q受注の大幅な上振れと、今後の事業見通しに基づき、通期受注予想を500億円、通期売上予想を350億円それぞれ引き上げます。営業利益も過去最高益となる1,000億円越えを目指します。
- 半導体の不足に加えて、APUやHPC向け半導体の相次ぐ新製品投入と、複雑化進行により、テスト顧客の稼働率は当面高いレベルで持続する見通しです。テスト需要の好調な持続を見込みます。
- 業績好調によるキャッシュフロー改善も考慮し、自己株式取得を実施します。株主還元と資本効率向上を図ります。
- 需要好調で、今年度からスタートしている第2期中期経営計画は幸先の良いスタートとなりましたが、
  - ① サプライチェーンの目詰まりによる部材調達難
  - ② 期待される世界経済回復の遅れによる需要減少への懸念
  - ③ 米中対立や経済安全保障政策がもたらす半導体産業への影響といった潜在リスクには十分留意しつつ、新中計目標の達成を目指します。